

# 会館だより

---

---



2014年 5月号

No.299



公益財団法人 日中友好会館

---

---



## 目次

### 行事案内

#### 《日中友好後楽会》

- ・5月談話会・交流夕食会
- ・春季ハイキング
- ・中国旅行

#### 《日中友好会館美術館》

- ・貸美術館催事「祝逐之書法作品日本展」

### 活動記録

- ・中日友好協会代表団一行5名が来日
- ・主催展「暮らす・装う・彩る 中国少数民族衣裳展」を終えて
- ・第23回観桜会
- ・3月談話会
- ・後楽寮寮生の万座温泉&スキー体験
- ・「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第9陣  
四川省・陝西省・甘肅省の大学生が関西を訪問
- ・「JENESYS2.0」中国農村青年幹部代表団一行30名が来日

### 事務局通信

- ・留学生事業部のご紹介

### コラム

- ・日中交流と太宰府  
(公財)日中友好会館 副会長 宮本雄二
- ・理事長のツイッター

### 会館行事と人の動き

#### 表紙

「飛天頌図」 作・李振甫 149cm×299cm 日中友好会館蔵

1989年に敦煌研究院より寄贈された敦煌壁画模写作品で、研究員の李振甫氏によって半年あまりの歳月をかけて完成したもの。寄贈以来、今なお日中友好会館本館地下1階に展示されている。



## 行事案内

### 日中友好後楽会

#### ◆5月談話会・交流夕食会

テーマ「日本語教育のいま」

日時：5月15日 17:00より

会場：日中友好会館  
地下1階 大ホール

参加費：1,500円

非会員の方はお問い合わせください

今回の談話会では、北京林業大学で日本語教育に携わり、現在後楽寮生で日本女子大学国文科にて日本文化を研究する祝葵さんを講師に迎え、中国における日本語教育の現状についてお話しいただきます。

昨今の中国の若者がなぜ日本語を学ぶのか、その目的や就職の状況のほか、日本語を学ぶ過程でぶつかる壁、近年日本語から派生して使われている中国語など、さまざまな観点からお話しいただきます。

中国語学習者の方も、外国語を学ぶ上での共通点など考えながら、一緒に学びましょう。どうぞご聴講ください。談話会後は、館内にて懇親夕食会を予定しております。

(担当：緒方)

#### ◆春季ハイキング

日時：6月6日 朝8:00  
日中友好会館 出発予定

行先：加藤洲十二橋めぐり、  
水郷佐原水生植物園、  
なごみの米屋見学  
(千葉県佐原、成田  
茨城県潮来方面)

参加費：お一人7,500円  
(バス、昼食、入場料込み)

加藤洲十二橋めぐりでは、女船頭が巧みな竿捌きで操るサッパ舟に揺られながら12本の橋が架かる水路を巡ります。また、水郷佐原水生植物園では「あやめ祭り」が開催中で、東洋一の品種を誇る100万株のハナショウブを鑑賞しながら、後楽寮生との交流を深めて下さればと思います。午後は、「なごみの米屋」工場にて和菓子作りの生産ラインを見学する予定です。もしかしたら、おいしいお土産があるかもしれません。

5月20日頃まで申込み受付中です。ぜひご参加ください。お申込みの方には、改めて詳しくご案内申し上げます。

(担当：大竹)



ハナショウブ



## ◆中国旅行

今年の中国旅行は次のように決定いたしました。今回は古くよりシルクロードの交易路として栄えた「河西回廊」の史跡と自然を訪ねます。「甘肅省といえば敦煌」というイメージがありますが、今回行く地域も仏教遺跡や砂漠が作る自然風景など見どころがとても多いところですので、なかなかご自分では足を延ばさない地方だと思いますので、ぜひこの機会にお誘い合わせの上ご参加ください。

お申込みの締切は、5月30日となりますが、振込案内や諸連絡がございますので、ご希望の方はお早目にご一報いただきますようお願いいたします。 (担当：小林)

「河西回廊に行くー甘肅省7日間」  
日程：7月8日 ～7月14日 6泊7日  
行先：甘肅省 蘭州・張掖・酒泉・嘉峪関

- 1日目：成田空港より北京乗継、蘭州へ。
- 2日目：蘭州郊外見学「炳靈寺石窟」
- 3日目：蘭州市内見学「甘肅省博物館」、「白塔山公園」、「黄河鉄橋」等。  
午後、列車にて張掖へ移動。
- 4日目：張掖市内見学  
「大仏寺」「万寿寺木塔」等。  
夕刻、夕日で七色に染まる  
「張掖丹霞地形」を見学。
- 5日目：午前、バスにて酒泉へ移動。  
酒泉市内見学（「甘肅シルクロード博物館」、「酒泉公園」等）  
夕刻、バスにて嘉峪関へ移動。
- 6日目：嘉峪関市内見学  
（万里の長城の西端  
「嘉峪関長城」、「魏晋壁画墓」等）  
夜、国内線にて北京へ移動。
- 7日目：国際線にて北京より、羽田空港帰着。

参加費用：会員 ¥252,000/1名（2人1部屋利用の場合、国際線燃油チャージ代別）  
詳細はお問い合わせください。

### 【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林、緒方、大竹  
電話：03-3811-5305 FAX：03-3811-5263  
メールアドレス：kourakukai@jcfc.or.jp

## 日中友好会館美術館

### ◆貸美術館催事

#### 「祝遂之書法作品日本展」

会 期：5月19日 ～5月25日  
時 間：10時～17時  
\*初日は15時より開幕式  
主 催：西冷印社集团公司

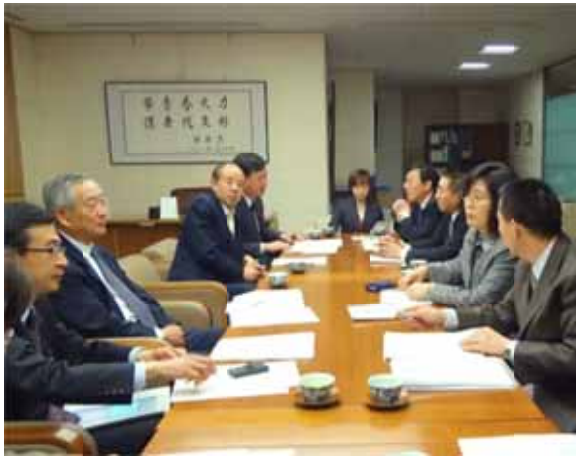
西冷印社集团公司は、文化交流を目的とした「西冷印社著名会員作品海外展シリーズ」を企画しました。その第一回展として、日中友好会館美術館にて西冷印社著名会員の書法大家である祝遂之の書法作品展を開催いたします。

祝遂之は、1952年生まれ。中国美術学院書法科主任、教授、博士課程指導教官、中国書法家協会理事、西冷印社理事兼書法研究室主任で、現代の中国書法界の中で最も実力ある書法家の一人です。彼の書法、篆刻作品は雄渾であり、“学院式”の謹厳と規範に基づき、独特の活力ある芸術風格をはらんでいます。

【問合せ】日中友好会館美術館内  
電話：03-3813-9145（会期中のみ）

## 活動記録

### ◆ 中日友好協会代表団一行5名が来日



日中青少年交流事業計画について話し合う



岡山で後樂園を参観

中日友好協会代表団一行5名(王秀雲 中国日本友好協会 副会長、関立彤 秘書長ほか)が、3月10日から3月17日までの日程で来日しました。本団は、2013年4月に締結した「公益財団法人日中友好会館と中国日本友好協会の友好交流代表団相互訪問の定期派遣に関する協議書」に基づき招聘したもので、双方の幹部が年1回の相互訪問を通じ、日中友好事業の積極的な促進を図ることを目的としています。

代表団は滞在中、東京と岡山で当公益財団の幹部との交流や2014年度の交流事業についての協議を行ったほか、東京、香川、福岡で、国会議員や地方自治体関係者との面談、日中友好団体及び中国との国際交流・経済分野の交流で関わりの深い団体・企業等を精力的に訪問し、両国の民間交流促進につながる有益な意見交換を行いました。

来日2日目となる11日夜には、都内にて当公益財団との懇親会を開催し、海江田万里評議員、竹下亘評議員、江田五月会長、劉智剛副会長ご夫妻、武田勝年理事長、王昆中国代表理事らが出席しました。昨今の日中関係の影響を受け、日中青少年交流事業が縮小傾向にある現状において、中国日本友好協会が民間交流の重要性を理解し、変わらず多大な協力をしてくれることに対し、改めて感謝の意を伝えるとともに、今後も円滑な協力関係を推し進めていくことについて確認し合いました。また、翌12日には日中友好会館に来訪され、実務レベルの担当者も交え、2014年度の日中青少年交流事業の具体的計画について話し合いました。

後半日程の3月15日には、江田五月会長、王昆中国代表理事が合流し、江田会長の出身地、岡山県を訪問しました。代表団を案内して日本三大名園の一つである後樂園や倉敷美観地区を参観、夜の会食には江田京子夫人も合流し、互いの友好と親睦を深めました。

代表団は7泊8日間の限られた時間を有効に活用し、精力的に活動を行いました。日中友好会館はもちろん、各界の関係機関とも有益な意見交換や親睦を深めることができ、今後の日中間の円滑な業務協力が期待されます。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

## ◆主催展 「暮らす・装う・彩る — 中国少数民族衣裳展」を終えて

2014年1月29日～2月26日の会期で当会館の主催展覧会「暮らす・装う・彩る 中国少数民族衣裳展」を開催いたしました。

京橋にある「アートスペース繭」代表の梅田美知子氏にご協力を頂き、ミャオ族やイ族など中国南西部を中心とした地域に居住する少数民族の衣裳を展示しました。また、各民族独特の暦法やお祭り、建築、いい伝えなどを写真とともに紹介したパネルを作成し、暮らしの様子が伝わるようにしました。



入口正面に展示した  
ミャオ族の衣裳と銀のアクセサリー

いくつかの作品には実際手に触れることができるように展示をしたので、「刺繍や織りの細かい部分を間近に見ることができた」「実際に手で触れることにより、少数民族の想いが伝わってくるような気持ちになった」とご好評を頂きました。また、会場内での写真撮影をOKとしたり、会期中の土日祝日や春節、元宵節に中国グッズが当たる福引きや、ギャラリートーク、ミニコンサートなどいくつかイベントを開催したのでご来場者に楽しんで頂けたのではないかと感じています。



大盛況だった「馬頭琴コンサート」  
((公財)文京アカデミーとの共催)



「二胡ミニコンサート」にも  
多くの方にご来場頂きました

中でも、(公財)文京アカデミーとの共催で行った馬頭琴コンサートには、用意した60席に対し270名ほどが来場し、立ち見が多く出るなど大盛況となりました。

この場をお借りして、本展開催にあたり貴重なコレクションを貸してくださった梅田様をはじめ、ご尽力くださいました関係各位に改めて御礼申し上げます。

(文化事業部)

## ◆ 第23回観桜会



呂克儉公使(右)と江田五月会長(左)

第23回となる観桜会が、3月25日(火)小石川後樂園内涵徳亭で開かれました。中国大使館から呂克儉公使をはじめ、文化部、領事部、商務部より多くのご出席をいただき、また、会館理事、評議員、関係者、後楽会会員、寮生委員、元会館職員など合わせて103名が集まりました。冒頭に、江田五月会長から開会の挨拶があり、続けて呂克儉公使より乾杯のご発声をいただきました。今年はしだれ桜もまだ4分咲きでしたが、にぎやかな雰囲気の中、日中友好を深めることができました。

## ◆ 3月談話会

3月6日、後楽寮生で早稲田大学にて法律を研究している王樹良さんを講師に迎え、中国の環境汚染問題と中国の環境法についてお話しいただきました。PM2.5問題、水質汚染、土壌汚染、砂漠化など、中国が現在直面している環境問題の現状や原因を、写真や図を多く用いながら紹介しました。



講師の王樹良さん

講義後半には、中国の環境法について詳しく触れ、日本の法律やシステムと比較しながら分かりやすく説明されました。参加者は熱心に耳を傾けていました。

(後楽会事務局)



## ◆後楽寮寮生の 万座温泉&スキー体験

3月27日、28日、日中友好会館後楽寮寮生一行38人は群馬県吾妻郡嬭恋村万座温泉で楽しい2日間を過ごしました。これは、寮生たちに日本の社会と文化への理解を深める目的で、留学生事業部のご支持および群馬県万座温泉日進館の協力のもとで行われました。

寮生は朝8時に後楽寮を出発し、貸切バスで目的地の万座温泉日進館まで4時間ぐらいかかりました。みんな途中の景色を楽しんで笑い声が飛び交い、4時間はあっという間に流れ去りました。到着前、すごい硫黄の匂いがバスに入り込んで、火山の気配を感じました。万座の地形と気候は、世界の三大長寿地帯と酷似しています。万座温泉は標高1800mの自然豊かな国立公園内に位置し、天然温泉は昔から、豊富な湯量と泉質に恵まれ、神経痛・膠原病・リウマチ・癌等に、驚くほどの効果をもって名湯中の名湯といえます。

到着早々、簡単に昼食を済ませ、皆わくわくしてスキーの話をしていました。宿泊先の日進館インで、皆は旅館が用意してくれた服と靴に着替えて、スキー板を調整してから練習場に向かいました。



万座温泉スキー場にて

まずはベテランの田辺先生にスキーの転び方や止まり方など基本方法を教わってから、練習に入りました。最初の時、初心者の方は要領をつかめなくて怖くて動けませんでした。

“せっかくのチャンスだからとりあえず一歩を前に出せ！”と励まされ、前に進んでいきました。私のような初心者が多いため、動けずに止まっていたり、何人かがぶつかって絡んでいたり、たくさん転んだり、すごい場面でした。皆一生懸命練習し、何回も倒れたらまた立ち上がって、まさに七転び八起きと言えます。

晩御飯の前に、皆少し温泉に入ったら、疲れと痛みは一気に取れました。晩御飯では、日進館は寮生たちのために本格的な和食を用意し、目の前の美しい料理を見て日本の食文化をより一層深い理解をしました。上品な若女将が挨拶に来られ、日本の温泉文化を紹介し、料理の食べ方も説明してくれました。陳先生と田辺先生に感謝の気持ちで、皆次々と酒を注ぎに行って、会場はとても賑やかでした。宿泊先ではまた二次会を開き、皆さん歓談して、楽しく過ごしました。

2日目の28日の朝食後、皆またスキー板を肩に載せ、練習しに行きました。お互いに悪い姿勢や型を直し合うことで、皆よくなっていきました。私自身も前より転ばずに長く滑れるようになりだんだん上手になって、すごく嬉しかったです。昼食を終えてまた少し温泉に浸かったりしたら、もう帰る時間になり、名残おしく東京に戻るバスに乗りました。

1泊2日の日程で、スキーと温泉の体験旅行へ行き、日本の文化に触れ、その文化や社会への理解が深まり、とても充実した旅行となりました。また、寮生たちは存分にスキーと温泉を楽しみ、お互いの絆も深めることができました。この旅行はわれわれにとって非常に良い経験となり、忘れられない良い思い出となりました。

(後楽寮生 周小倩)



## ◆ 「JENESYS2.0」 中国大学生訪日団第9陣 四川省・陝西省・甘肅省の 大学生が関西を訪問

3月4日から3月11日までの8日間、中国大学生訪日団第9陣(団長=関立形 中日友好協会秘書長)が来日した。本団は、四川省・陝西省・甘肅省の大学に通う大学生・大学院生と引率の計88名で、外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は、東京をはじめ、京都府、滋賀県、奈良県を訪問し、日本の大学生と交流したほか、ホームステイや環境施設の見学、地方自治体によるブリーフなど「クールジャパン」をテーマにさまざまなプログラムに参加し、政治・経済・歴史・文化・社会に関する包括的な対日理解を深めた。

### マンガ・アニメを通して日本の文化を学ぶ

訪日団は、武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部の佐々木隆教授より「マンガ・アニメから見た日本文化」というテーマで講義を受けた。日本のマンガ・アニメの特長や、どのように発展し現在のように大きなマーケットを形成するに至ったか、また、文化外交のツールとしての状況や今後の可能性などを学んだ。マンガやアニメが日本語に興味を持ったきっかけという団員も多く、作家の意図や、メディアの多様化の中での市場拡大など、突っ込んだ質問が多数挙がった。

### 日本の大学生との交流で より深い相互理解を実現

学生交流は2回行い、同志社大学と早稲田大学を訪問した。同志社大学では、学生の案内で歴史的建造物も多いキャンパスをめぐり、その後、「京都の祭りについて」の模擬授業を受けた。日本の学生も一緒に、中国の祭りとの違いなどについてグループディスカッションを行い、各グループが発表して結果を共有し

た。授業は通常に近い形式で日本語で行われ、初めは少し緊張していた団員たちもすぐに打ち解けて積極的にコミュニケーションしていた。



同志社大学の学生にキャンパスを案内してもらう

早稲田大学では、大学紹介や交流会、キャンパスツアーを行った。学生たちは互いに相手の国に関心を持ち、学生生活や余暇の過ごし方、将来のことなど自由に話して盛り上がった。交流活動を通じて団員たちは、日本の教育環境や同世代の生活に理解を深めた。

### 滋賀と奈良で農村生活を体験

訪日団は京都から二手に分かれ、滋賀県と奈良県をそれぞれ訪れた。滋賀県では県庁で、琵琶湖の水環境改善への取り組みや、中国とのつながり、県内の観光地などについて説明を受けた。ご当地キャラクター「お江ちゃん」も登場し、ゆるキャラでの地域PRについても理解した。また園城寺や彦根城を参観し、滋賀県の魅力を体感した。

奈良県でも、県庁職員から県の概要、中国とのゆかり、クール奈良等について説明を受け、クイズを交えた内容に団員は興味を持って参加していた。東大寺、唐招提寺、薬師寺の参観や、にぎり墨の制作体験などさまざまな角度から理解を深めた。

さらに、ホームステイを通じての農村体験を、滋賀県では日野町、奈良県では明日香村で行った。農村家庭で一晩を過ごし、日中は

各家庭でジャガイモの植え付け等の農作業や味噌作り、餅つきなどのお手伝いをして、伝統的な農村での生活を体験した。最初は中国の農村との違いに驚いた様子だった団員も、最後のお別れの際には、ホストファミリーと肩を抱き合って別れを惜しみ、再会を誓っていた。

そのほか東京では、有明水再生センターを訪れ、水の再生処理技術や環境保護の取り組みなどについて学び、京都では清水寺、嵐山の天龍寺等の世界遺産を参観した。

もともと日本語を学ぶ学生たちだが、8日間の多彩な活動を通じて、日本を体験として身近に感じ、生きた学習の場となったようだった。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。



有明水再生センターにて  
きれいになった水のにおいを嗅ぐ団員

(総合交流部)

## ◆ 「JENESYS2.0」 中国農村青年幹部代表団 一行30名が来日 東京、大分、福岡を訪問



団員と談笑する江田会長(右2)と武田理事長(右1)  
(於: 歓迎会)

中国農村青年幹部代表団(団長＝王秀雲 中国日本友好協会 副会長、副団長＝任建新 北京市人的資源社会保障局 副巡視員)が、3月17日から3月24日までの日程で来日した。本団は、北京市の農村青年幹部及び行政関係者で構成された計30名で、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

代表団は、東京、大分、福岡にて、農林水産省や地方自治体等によるブリーフ、各種農業関連施設の訪問・視察、農業に従事する青年との交流、農家泊・日本文化体験などのほか、「クールジャパン」をテーマにさまざまなプログラムに参加し、政治・経済・歴史・文化・社会に関する包括的な対日理解を深めた。

### 日本の農業を学び体験

一行は、東京で農林水産省を訪問し、「日本の農業の現状と今後の農政」をテーマに講義を受けた。また全国農業協同組合中央会と全国農業協同組合連合会による合同ブリーフでは、「日本の農協組織について」と「食の安全・安心にかかる全農の取り組みについて」をテ

ーマとした研修を受けた。これらのブリーフを通じて、日本政府の農業重視政策、日本の農業と農村を取り巻く状況についてマクロの視点で理解することができた。

大分では、日本のグリーンツーリズムの先駆けである「安心院町グリーンツーリズム研究会」を訪問し研修を受けたほか、(株)ドリームファーマーズと橋津宮農組合「よりもの郷」を視察し、農村における地域活性化や高齢化対策についてのノウハウを学んだ。また、地元青年との交流では農村の課題について本音で語り合い、農家泊体験を通じて日本人のおもてなしの心を感じた。

福岡では、福岡県農林水産部農林水産政策課から「県の農業」について説明を受けたほか、施設園芸農家「ドリームファーム浮羽」と高収益化農家「太郎グループ」を視察し、地方都市における消費者の食に対する要求に対応した農業経営の成功例を実際に見ることができた。

農業分野に関する各種訪問・視察を通じて、団員は日本の農業と農村の現状について理解を深め、各々が行政に携わる農村での業務の中に生かせるヒントをつかんだと思われる。また、それぞれの訪問先での温かいおもてなしに、中国からの訪問が心から歓迎されていることを肌で感じ、交流や協力関係の重要性を再確認したようだった。

### 歴史文化や自然など、日本の魅力に触れる

そのほか、東京で国会議事堂視察や浅草・皇居の参観を行い、大分では八幡総本宮である宇佐神宮を見学した。福岡では太宰府天満宮、九州国立博物館の参観で歴史文化に触れ、日本の伝統文化である茶道も体験、また、日本企業の視察としてアサヒビール工場も見学した。各地で多彩な活動を通じて日本の文化、歴史、自然に親しみ、さまざまなクールジャパンに触れることができた。

団員からは、「今回の訪日を通じて本当の意味で日本人やその生活を理解でき、日本への嫌悪感が拭い去られた」「両国の農業が抱える課題を話し合ううちに、日中の違いが浮き彫りになり、問題解決のための参考となった」「日本の農業についてマクロからミクロまで幅広く理解できた。帰国したら日本の素晴らしい経験や方法を村の実情に照らし合わせながら実践したい」という声が聞かれ、それぞれが訪日で得た成果を今後の職務や生活に生かし、日本の魅力が広く発信されることが期待される。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。



培養液によるトマト栽培を視察  
(於：ドリームファーム浮羽)

(総合交流部)

## 事務局通信

このコーナーでは、弊会館をより一層、身近に感じていただくことを目指して、さまざまな内容をお伝えします。今回は、留学生事業部のご紹介をいたします。

### ◆ 留学生事業部のご紹介

留学生事業部は、寮の運営管理と留学生業務を執り行っている部署であり、事業部スタッフは事務室6名、中国外交部からの派遣調理師2名、寮の受付担当2名の10名です。

会館には後楽寮と後楽寮研修棟という留学生寮があります。後楽寮は203室、後楽寮研修棟は34室あり、全て単身寮となっています。後楽寮には食堂をはじめ図書室・新聞閲覧室・理髪室・体育室があり、各階には給湯室・洗面所・シャワー室が完備、後楽寮研修棟は後楽賓館の2階と3階部分を留学生寮としています。



後楽寮入口



春節には寮生と一緒に餃子作り

寮には常時180名を超える留学生が生活しています。寮の運営や施設の管理はもちろん寮生の自治組織である「寮生委員会」への支援や留学生の日常的なサポートも大事な仕事です。また寮では多くの行事が行われます。毎年2大行事である国慶節と春節の祝賀会をはじめ、お花見や紅葉狩り、小田原市・加須市・長野県へのホームステイ、各区友好協会との友好行事等への支援も積極的に行っています。さらに後楽寮生のOBが約4,000名となった現在では「後楽会中国」というOB組織を立ち上げ、分会の設立とネットワーク作りに力を注いでいます。最近では元寮生の子弟が入寮するようになり、後楽寮が留学生にとって信頼される施設であることの裏付けだと確信しています。

留学生事業部の仕事は多岐にわたりますが、両国の友好に欠かすことが出来ない「人」を育む意義ある仕事です。中国の未来を担い、両国友好の人材である留学生が安心して勉学に励み、また日本の文化と触れ合える時間と場を多く提供できるように、我々留学生事業部も一層の努力をして参りたいと思います。

## コラム



### 日中交流と太宰府

(公財)日中友好会館 副会長 宮本雄二

私の故郷は、福岡県太宰府市だ。子供のころ太宰府天満宮の境内は参拝客も少なく、私たちの草野球の場所だった。太宰府天満宮は、この地で亡くなった菅原道真を祭っている。私も菅原道真の多くの物語と一緒に育った。太宰府に流される前の894年、都の要職にあった菅原道真が建議して、遣唐使は廃止された。彼の地の政情不安が主な理由であった。

太宰府に「都府楼跡」と呼ばれる史跡がある。政庁跡のことだ。大きな礎石が残るだけだが、ここも私たちの大事な遊び場だった。663年、日本は朝鮮半島の百済を復興させようと救援軍を派遣したが、<sup>はくすきのえ</sup>白村江の戦いで唐と新羅の連合軍に敗れた。今度は日本が攻められるかもしれないというので作られたのが、軍事都市「大宰府」だ。このころ水城の堤防がつくられ、周囲の山々には朝鮮式山城がつくられている。このようにして九州を統括するだけではなく、軍事と外交の機能を合わせ持つ役所である「大宰府政庁」が誕生した。遣隋使には間に合わなかったが、遣唐使の時代になると彼らは行きも帰りも大宰府政庁に顔を出したはずだ。

753年、鑑真和尚は鹿児島に到着した。大宰府政庁を訪れ、その後、平城京に向かっている。東大寺に戒壇院が建立され、鑑真は聖武天皇らに戒を授けた。こうして6世紀の仏教伝来以来、はじめて正統の戒律と厳格な受戒作法が日本に伝えられた。東大寺だけだと遠国の者は不便する。そこで<sup>しもつげ</sup>栃木県の下野薬師寺と太宰府の観世音寺に戒壇院が設けられた。この太宰府の戒壇院は、今も残っている。

## コラム



### 理事長のツイッター

(公財)日中友好会館 理事長 武田 勝年

約20年前、私は中国安徽省合肥市に機械製造合弁会社を設立する交渉に参加していました。同市の経済顧問をされていた故邱永漢氏（実業家・作家、台湾出身）も出資参加を検討されていたので、何度かお目にかかる機会がありました。ある時、邱永漢氏に「武田さん、世の中には人が創った道を歩く人と、自ら道を切り開く人が居ます。原野に新しい道を拓く気持ちが肝要です。」と言われて、ハッと自分の心構えの甘さに気付かされました。当時、日本国内の販売事業でかなりの不良債権が発生し、子会社の経営破綻等の問題を抱えていたので、日々それらの懸案解決に精力を奪われ、新規事業投資案件に正面から向き合う余裕がなかったことを、観察眼の鋭い邱永漢氏に見透かされたのかも知れません。その後、この合弁会社はほぼ予定通り設立され、様々な困難、試練がありましたが、中国の経済成長に合わせて飛躍的に業績を拡大し、現在も隆々と事業を継続しています。

一昨年来、日中間の政治関係が緊張する中で、日中友好会館が担当する青少年交流事業も規模の縮小を余儀なくされていますが、少しでも多くの中国青少年を日本に招聘するにはどうすれば良いのか、日本青少年の訪中交流事業を復活する手立ては無いのか等を思案している時に、フッと邱永漢氏の言葉を思い出したのです。心構えが不十分ではないかと自己反省するきっかけになりました。

世の中には、「新しい道を拓く人」と「出来た道を歩く人」の両方が居り、又、一人の人が自ら道を拓く時もあれば他の人が整えた道を歩く時もあると思います。私は、過去も現在も組織で働いてきた者ですから、先達が拓いてくれた道を歩くことが多かったと思っていますが、それでも日々小さな工夫を重ねることに留意し、新規事業の開発や組織改革の提案等を行って来ました。

新しい道を切り開く時には、往々にして抵抗・反対に遭遇します。それでも歴史上多くの先覚者が、社会進歩を求めて或いは新しい時代を切り開くために奮闘してきました。昨年来日本政府も、日本経済を成長軌道に乗せるために投資促進政策、規制緩和、TPP交渉等に取り組んでいますが、その道は平坦ではありません。

誰もが革命家や時代の創造者になれるわけではありませんが、日々の生活や仕事の中で新しい境地を求めて自ら模索し努力を重ねること、共通の目標を実現するために同僚や友人達と協力することはできると思っています。一人一人がしっかり学び、考え、善意に則り、誠意を尽くして頑張れば、矛盾を昇華した次元の異なる段階への筋道が見えてくるかも知れません。



## 会館行事と人の動き 3/1 ~ 31

### 会館行事

- 3/ 4 ~ 3/ 9 ▶ 貸美術館催事「中国奥地の蘭展」
- 3/ 4 ~ 3/11 ▶ 「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第9陣 来日(3/10 同団歡送報告会)
- 3/ 6 ▶ 後楽会談話会・交流夕食会「中国の環境汚染と法律」(講師：王樹良)
- 3/10 ~ 3/17 ▶ 中日友好協会代表团 来日(3/15 同団岡山日程同行 江田会長、王昆理事)
- 3/11 ▶ 第10回理事会
- 3/15 ▶ 日中学院卒業式
- 3/17 ~ 3/24 ▶ 「JENESYS2.0」中国農村青年幹部代表团 来日(3/18 同団歓迎会、3/23 歡送報告会)
- 3/20 ▶ 文化事業諮問委員会
  - ▶ 後楽寮新入寮生説明会
- 3/25 ▶ 第5回評議員会
  - ▶ 第23回観桜会
- 3/27 ▶ 後楽寮生日本文化体験(群馬県万座温泉)

### 来館・訪問・面会

- 3/10 ▶ (公財)東芝国際交流財団 専務理事 白井純氏 来館(武田理事長他)
- 3/21 ~ 3/22 ▶ 小田原国際交流協会 小嶋勲会長宅訪問(留学生事業部)

### 行事参加、その他の活動

- 3/ 6 ▶ 中国大使館 国際婦人デー記念パーティー(留学生事業部)
  - ▶ 第82回日本音楽コンクール受賞者発表演奏会(後楽寮生)
- 3/15 ▶ 文京区国際交流フェスタ(後楽寮芸術団出演)
- 3/27 ▶ 日本国際貿易促進協会 創立60周年記念祝賀会(江田会長、武田理事長)
- 3/29 ▶ 中日交流会花見(後楽寮生)



2014年5月1日発行 第299号  
発行 公益財団法人 **日中友好会館**  
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目5番3号  
電話(03)3811 5317 FAX(03)3811 5263  
<http://www.jcfc.or.jp/>